沖縄県内小中高等学校、特別支援学校の先生方へ

文化庁

令和 6 年度「学校における文化芸術鑑賞・体験推進事業 コミュニケーション能力向上事業」

＜NPO 法人提案型＞

子供たちの創造性やコミュニケーション能力を育むための ダンス体験学校訪問ワークショップのご案内

（左：宮古島市立西辺中学校　右：うるま市与那城小学校　　R5 年度アーティスト：合田緑、マニシア、赤丸急上昇）

NPO 法人 JCDN(ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク)は、京都市内に事務局を置き、アーティストとともに全国各地へダンスを届ける活動を行っています。教育に関わる活動では、これまで、文部科学省（令和元年より文化庁に移行）の「コミュニケーション教育事業」や行政からの委託を受けて、アーティストが小・中学校へ出向いて行うワークショップのコーディネート、学校の先生のためのダンス教材開発などを行っています。からだを使ったコミュニケーションや創作方法である“ダンス”を通じて、一人一人の個性を引き出し、生きる力を養い、多様な価値観や他者との協同などについて学ぶことを推進しています。

H27-R5 年度、当該事業を沖縄県内 25 校で実施しました（那覇市[石嶺小/大道小/真壁小]、沖縄市[美咲特別支援/桑江中/山内小]、名護市[瀬喜田小]、八重瀬町[新城小(2 回)]、西原町[西原南小/西原東小]、南城市[知念中(3 回)]、豊見城市[伊良波小]、宜野湾市[普天間小]、うるま市[あげな小/高江洲小/与那城小]、石垣市[石垣小/平真小/野底小]、竹富町[上原小(2 回)]、宮古島市[佐良浜中・伊良部島中(3 回)・西辺中]）。本年度も、沖縄県内の小中高校を対象に、下記の通り、実施希望校を募集します。ぜひこの機会にご応募ください。

記

1. 派遣アーティスト
学校側の希望と可能なスケジュールをお聞きし、全国のダンスのアーティストの中から、経験が豊富で信頼のできるアーティストを、JCDN（コーディネーター）が推薦し、各学校と相談の上決定します。

2. 派遣期日　令和 6 年 1 学期～令和 7 年 2 月末まで （※開催時期は各学校とご相談の上、決定）
小中高校のいずれか計 3-4校程度で実施。1 回 1 クラス～2 クラス程度（多い場合は応相談）。
回数は、1 回 90 分(*)×3 回のワークショップを 3 日間連続で行います。
＊当該事業が同じ児童生徒に対し最低 3 回以上の授業を行う事を推奨しています。1 学年 3 クラス以上など人数が多い場合は、2 クラスごとに時間割を分けて行うなど検討します。詳しくは、実施決定後に打合せを行い、相談して決めます。

3. 費　用　アーティストにかかる交通費・宿泊費・謝金など、全て文化庁の助成金により負担します。

4. 受託団体　NPO 法人 Japan Contemporary Dance Network（JCDN） 担当：神前(ｺｳｻｷ)
京都市下京区神明町 241 オパス四条 503
TEL/075-361-4685　FAX：075-361-4685
Mail/jcdn@jcdn.org　WEB: http://www.jcdn.org

5. 申込・問合　2024 年 5 月 15 日（水）までをめどに、4 の受託団体まで。

＜授業後の教員アンケートより＞

(児童について) ●日をおうごとに表情がほぐれて楽しんでいる様子が見られました。●ダンスに対するマイナスなイメージを持った生徒の多くが、本事業終了後には、「楽しかった」という意見が大半を占めた。さらに、時間を重ねるごとに、生徒一人一人が他者と協力し、コミュニケーションを通して、オリジナリティーあふれる作品に仕上がった。体の細部にわたって、感じを込めて踊ったり、表現することの楽しさを感じていたことに、本事業の凄さと魅力を強く感じている。 ●自分を自由に表現する事や表現できることに喜びを感じることができた。人前で踊るという恥ずかしさは大人でもなかなか拭い去ることができないが、一緒にやっているうちに少しづつほぐれていくんだなと思った。

(先生ご自身について、他) ●とても良かった。ダンスに関する引き出しが少ないので、講師の先生方が工夫を凝らして用意してくださったワークの数々が、とても参考になった。●課題へのアプローチの仕方や見方が、教員以外の視点で頂けたことが、今後の指導における大きなヒントとなった。３日間の授業をゆっくりじっくり客観的に子どもたちを見つめ直す機会となった。●学校では統率されることが多いが、個々の自由な発想を大切にしていきたいと考えるようになった。●こんなに素晴らしい事業があるなんて今年初めて知りました。●子供達の別の一面が見られた。

＜児童生徒のアンケート(小学１年生～中学３年生) より＞

●コンテンポラリーがこんなに楽しいとは思わなかった。 ●めっっっっっっちゃたのしかったし、またやりたいなーと思いました。 ●普段は体験しないことをしたので新鮮で楽しかった。 ●最初の先生たちのダンスが衝撃的で、絶対明日、筋肉痛なる！と思って観ました。 ●自分もみんなもいつもと違う感じでとても楽しかった。 ●ものすごく楽しくてダンスの先生みたいになりたいと思いました。 ●からだをこんなにたくさん動かせるんだなと、知りました。 ●ふりつけがないことにびっくりした。 ●自由に踊っていいというところがおもしろい。 ●いろんなダンスのやり方があるのを知れてよかった。 ●みんなにいろんな特技があることを知れた。 ●自分に自信が、意外にあった。 ●ダンスは自分の気持ちを表現できる感じた。 ●自由に考えて踊るのは楽しい。 ●忘れかけていた小さい頃の感覚が取り戻せる感じがしてうれしかった。 ●ありのままの自分を発見できた。 ●このような形のダンスがあるというのを初めて知った。 ●自分で考えたダンスを踊ることも楽しいと、発見した。

実施希望調書（申し込み用紙）

学 校 名	立　　学校		
所 在 地 等	〒 TEL　　FAX 御担当者:Email		
学校長名		担当者名	

1	実施学年・学級数	
2	対象児童・生徒数	年生　　クラス　　名（男　　人／女　　人） *3クラス以上の場合は、時間をずらして実施するなど、応相談。
3	実施日程(希望される時期などをお書きください。)	
4	実施希望理由、ほかコメント等あれば	
5	教育課程への当該事業の位置づけ	

申込先　/　Mail/jcdn@jcdn.org　FAX:075-361-4685（JCDN）

■掲載記事

【宮古毎日新聞　2023 年 10 月 21 日】
「体で表現する楽しさ体験
　西辺中生　特別授業でダンス学ぶ」

1955年9月21日第3種郵便物認可

体で表現する楽しさ体験

西辺中生　特別授業でダンス学ぶ

西辺中学校（友利和広校長）は20日、文化芸術による子供育成推進事業として、コンテンポラリーダンスの特別授業を同校体育館で行った。全校生徒39人が参加して、全身を使って表現する楽しさを体験した。

ダンスアーティストのマニシアさんが生徒たちを指導した。大鼓演奏者の「DAI」さんも参加して、踊りやすくするためにリズムを刻んだ。

コンテンポラリーダンスとは、テクニックや表現形態に共通の形式を持たない自由な踊り。

同事業は、コミュニケーション能力の向上や他者と交流し、表現力を豊かにすることなどを目的に、同校で18日から3日間実施されている。

生徒たちは笑顔で体を動かしていた。仰向けで両手両足をついた状態から体を半回転。片足を高く上げた反動を利用して立ち上がる動きを練習した。

マニシアさんは「立ち上がる時に、両手を大きく回すとダイナミックに見える」などと助言していた。

マニシアさん（手前）の指導を受けながら踊る生徒たち＝20日、西辺中体育館

【琉球新報　2023 年 12 月 16 日】
「表現力豊かに創作ダンス
　知念中１年生　プロの指導受け発表」

2023年（令和5年）12月16日　土曜日　市町村（24）

体を大きく使ってダンスをする生徒ら＝11月29日、南城市知念の知念中学校体育館

表現力豊かに創作ダンス

知念中１年生　プロの指導受け発表

【南城】南城市立知念中学校（徳元清政校長）で11月27～29日の３日間、プロのダンサーを講師に迎えた創作ダンス体験ワークショップが開かれた。最終日の29日は成果発表もあり、参加した１年生約40人が手足の動きを確認しながら、表現力豊かにダンスを披露した。

生徒の創造性やコミュニケーション能力を育む目的。講師は愛媛県松山市を拠点に活動するコンテンポラリーダンスカンパニー「ヤミーダンス」の合田緑さんが務めた。アシスタントとして県内在住の金城智子さん、根岸由季さん、國仲正也さんも参加した。

振り付けには、手拍子や水を飲むしぐさなど生徒の中から出てきた日常的な動きを取り入れた。合田さんは「今自分がここにいることを確かめながら踊ってほしい」と声をかけ、生徒らは集中力を高め本番に臨んだ。

親川創さん(12)は「自分で考えてダンスをして楽しかった。最初は自信がなく、後ろに隠れていたが、本番は前に出てできた」と話し、「出来は最高」と目を輝かせた。

合田さんは「内に秘めた情熱が体からだんだん発散されていくようなパフォーマンスだった」と称賛し、「新しい動きに挑戦して、恥ずかしさや葛藤を一歩乗り越えようとする気持ちが伝わってきた」とほほ笑んだ。

ワークショップの実施は今回で３回目。　（上江洲仁美）

美ら島だより　ネットワーク

皆様からの情　またはEメー

【宮古新報　2023 年 10 月 21 日】
「ダンスで表現力豊かに　子ども育成事業でマニシアさん」
https://miyakoshinpo.com/2023/10/21/%e3%83%80%e3%83%b3%e3%82%b9%e3%81%a7%e8%a1%a8%e7%8f%be%e5%8a%9b%e8%b1%8a%e3%81%8b%e3%81%ab%e3%80%80%e5%ad%90%e3%81%a9%e3%82%82%e8%82%b2%e6%88%90%e4%ba%8b%e6%a5%ad%e3%81%a7%e3%83%9e%e3%83%8b%e3%82%b7/

■琉球新報　教育面リレーコラム『未来へいっぽにほ』
　2017 年 4 月～9 月まで　NPO 法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワークの神前が連載を担当しました。
（2017 年 6 月 23 日）

未来へいっぽにほ

身体はうそをつけない

神前　沙織（NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク）

2011年度から文部科学省が子どもの表現力・創造力・コミュニケーション力を豊かにするための芸術体験事業を行っている。現代社会で子どもが生きる力をつける学習の一環として、美術、音楽、ダンスなどの専門家（アーティスト）が授業の中で、芸術表現のワークショップを行う。私は学校とアーティストのつなぎ役、それも創作ダンスを専門とするコーディネーターである。沖縄では2年前から沖縄市、那覇市、名護市、石垣市の計5校で実施した。

昨年度、那覇市の小学校で行った3日間の授業が記憶に新しい。思春期前の6年生60余名。自我の芽生えが「恥ずかしい」気持ちになって現れる微妙な年齢だ。1日目は心と体をほぐすのに時間をかけ、2日目は大きく動くとか、仲間の目を意識しすぎずに表現することに慣れてきて、3日目で一人一人の本来の表現が見えるようになる。

個人差はあるが、少しずつ、いつの間にか普段の自分や周囲とのしがらみ、関係性を意識せずに自分を表現できるようになる。ともすると閉じられていた何かが開かれる。そういう発見が随所に見られた。

この時の担任は、そうしたダンスの可能性を見抜いてこう話した。「身体はうそをつけない。ノートも机も、隠すものが何もないから、体一つで勝負しないといけない。他の教科と違ってすぐ数値化できるものじゃないけれど、それ以上の人間力が身に付くと思う」

SNSが普及し、子どもたちが小さな機械に振り回されダイナミックさを失いつつあるという。そういう時代だからこそ、人それぞれの原石が磨かれる機会はたくさんあってほしい。

ちなみに今年度も当事業を行うことになった。現在、沖縄県教育委員会を通じて参加校を公募している。